

## No. 32 令和5年度「保幼小中一貫教育合同研修会」

令和5年5月10日（水）

令和5年度第1回「保幼小中一貫教育合同研修会」を午後2時より、東能勢小学校体育館で保幼小中の全教職員を対象に開催いたしました。

本町では令和8年4月に東、西地区それぞれに小中一貫教育校を設け、義務教育学校として開校することを目指し、学校、先生方、また学校運営協議会で色々な準備を進めていただいています。そのような中、今回は本町が取り組んでいます「保幼小中一貫教育」を主題に梶田叡一先生を講師にお迎えし「**確かな学びと豊かな心の育成**」のテーマのもと「**保幼小中の発達を踏まえて**」という演題でご講演いただきました。

峯 義務教育課長から今年度重点的に取り組む二つの内容について、説明がありました。

一つ目は、昨年度、まなび部会の各教科会で小中の先生と一緒に作成いただいた「小中一貫カリキュラム」を実際に活用して授業を考え研究授業を行うことです。

二つ目は「とよの未来科」の本格実施です。豊能町独自の教科＝とよの未来科は「とよの」を学ぶことを通して、自分の生き方を考えたり、豊能町の未来を考えたりする学習です。豊能町の「豊かな自然」と「豊かな人材」を活かした、豊能町だからこそこできる、豊能町ならではの学習となります。

令和8年4月の義務教育学校開校まで、あと3年を切りました。子ども達が「あの学校に行きたい！」保護者や地域の方が「あの学校に通わせたい！」と言われる学校を、みなさんの力を結集して創り上げていきたいと思えます。

梶田先生のお話をお聞きして

<梶田先生のお話をお聞きして>

- ・経験談を沢山入れていただき保幼小中一貫教育を進めるために、必要な知識や意識を持つことができました。
- ・4, 3, 2制が子どもの発達に適していること、それぞれのカテゴリにおいてうまくコーディネートし、子ども達の達成感や気持ちの切り替え、モチベーションの向上に繋げる話が特に心に残りました。



- ・「一定の規律はやはり必ず必要です。」という言葉をお聞きして、明日からの学級経営でも再度規律を見直して、安心して学習できる環境を整えていきたい。
- ・人間力を養い、子ども達は、一人ひとりが主人公であることを忘れず、教育することを目指したいと思います。
- ・学習面で子ども達にしっかり指導していくことは勿論大切ですが、心の成長を見据えて向き合っていくことも大切であることを大事にしていきたい。
- ・子どもの発達について、「自己コントロール力があり、そのうえで価値づけができるようになり、また違った見方ができるようになる。」といことをお聞きし、発達段階に合わせた学びの大切さを感じました。
- ・教員の待遇改善にも色々と動いて頂いていることが良く分かりました。

梶田叡一先生、お忙しいなかお世話になり有難うございました。

「どの子にもきちんと学力が着き、人間的な成長が実現していく」そのようなことを大切に、明日からの子ども達の教育に活かしていきたいと思います。



#### <梶田叡一先生プロフィール>

1941年島根県松江市でお生まれになり、お隣の米子市の小中学校、高校を卒業後、京都大学・文学部・哲学科に入学され、大学院・修士課程を修了後、1966年4月から国立教育研究所研究員・主任研究官。1977年から日本女子大学文学部助教授、大阪大学人間科学部教授として教鞭をとられる。1994年10月から京都大学・高等教育教授システム開発研究センター長。その後、京都ノートルダム女子大学、兵庫教育大学、環太平洋大学、奈良学園大学、桃山学院教育大学、5つの大学の学長を務められる。現在は仙台にある小中、中高一貫教育校「聖ウルスラ学院」の理事長をなさっています。

<役職等>

「教育改革国民会議」委員、「中央教育審議会」副会長、各部会の部会長や分科会長を歴任され、幼稚園から小中学校、高等学校、支援学校などの教育課程編制や、学習指導要領の編纂、教育評価などの幅広い分野において日本の教育を牽引されてきました。

日本人間教育学会会長、日本語検定委員会理事長、兵庫教育大学名誉教授

<著書>

「自己教育の教育」「ブルーム理論に学ぶ」(明治図書)「生き方の人間教育」「教育における評価の理論」(金子書房)はじめ100冊を超えています。

<褒章>

これまでの功績に対して、令和4年11月「瑞宝重光章」をご受章されました。